



働くこと の幸せ を大切にする企業

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

日本理化学工業はチヨークの製造メーカーですが、チヨークの品質や生産性は業界トップクラス。
その理化学工業は全社員のうち、7割が知的障害者。しかも、そのうち半数近くが「重度」に該当します。

知的障害者の雇用を始めたのは、50年以上前。当時養護学校の先生から至徒の就職をお願いしたいと頼まれたのがきっかけでした。と会長は語ります。

当時は知的障害者に対して偏見を持っていましたから、就職はお断りしました。その先生はあきらめず、3度目に来られた時、「もう就職させてくれとは言いませんから、働く体験だけでもさせてくれませんか」と前置きし、「もし就職しなければ、この子たちは卒業後、施設に入ることになりました。そうなれば、一生“働く”ということを知らずに人生を終えることになるのです」と。そして、2週間の就業体験を受け入れたのです。

ところが就業体験に来た2人の女性には、とても熱心に働いてくれました。簡単な作業でしたが、本当に真剣に取り組んでくれたのです。それを見たほかの従業員が、「こんなに一生懸命やってくれるんですから、雇ってあげたらどうですか。私たちも面倒を見ますから」と私に言ったのです。それで翌年その女性たちを採用しました。それがわが社の障害者雇用のスタートです。

それから3年ほど経った時のこと。ある寺の住職と話をする機会があり、こんな質問をしてみたのです。「うちの工場では知的障害者が一生懸命に仕事に取り組んでいます。施設に入って面倒を見てもらえば、今よりずっと楽に暮らせるのに、なぜ彼女たちは毎日工場へ働きに来るのでしょうか」と住職はこう答えました。又問の究極の幸せは4つあります。1つ目は、人に愛されること。2つ目は、人に褒められること。3つ目は、人の役に立つこと。4つ目は、人に必要とされること。だから障害者の方たちは、施設で大事に保護されるより、企業で働きたいと考えるのです。その瞬間、私は自分の考えが根本的に間違っていたことに気づきました。今日もよく頑張ったね、ありがとう」という声掛けに、知的障害者の人たちは心からうれしそうに顔をします。

健全者がごく当たり前だと思っていたことの中に、人間の究極の幸せが存在する。そのことに私自身が気づかされました。それ以降、私は知的障害者の雇用を本格化させました。経営者として又にも幸せを提供できるのは、福祉施設ではなく企業なのだ」という信念を持つようになったからです。今日の本理化学工業があるのは、知的障害者の従業員たちが導いてくれたおかげ。私や健全者の社員たちの方が、「働く幸せ」とは何かを知的障害者から教えてもらったのです。東洋経済より）

編集後記

純粹な心の人達から当たり前を学ぶこと、その学びは活かすこと、それこそが大切だと思いました。